

「第3回神戸市における里親委託推進のための検討会」での主なご意見

○里親の広報・リクルートについて

- ・里親制度についてまずは市民に広く知ってもらったうえで、ターゲットを絞った里親のリクルートにつなげていくのが良いのではないかと。そのために、毎年の里親月間だけ広報するのではなく、常に市民が目にするような形での広報が必要。
- ・特別な人だけが里親になれるという考え方ではなく、里親になろうという思いを持った人に里親になってもらって、そういう人をしっかりとサポートしていくための体制をつくっておく必要がある。

○里親家庭での養育支援体制について

- ・里親が委託された子どもを養育するにあたって、一般の子育てとは異なる特有の悩みもあり、里親同士でなければわかってもらえないこともある。そういう時に里親同士で支え合う仕組みについて、現状でも様々な団体等が交流の場を設ける等の取組を行っているが、十分に知られていないこともあるので、里親が上手くそういう場を活用できるように支援していく必要がある。

○里親・ファミリーホームの養育者への研修について

- ・里親のモチベーション向上やスキルアップの機会として、研修を受講する機会やそのための支援体制の確保が必要ではないかと。現状では、里親の新規登録や5年ごとの登録更新時の法定研修の受講は義務づけられているが、それ以外の研修は受講していない里親も多い。里親が子どもを養育していく上で難しい課題があることも多く、それが原因で養育が続けられないということのないように、里親が勉強する機会が必要。

○施設に入所しているこどもの家庭復帰や里親委託に向けた支援について

- ・施設に入所している子どもについては、まずは家庭復帰に向けた検討や支援を行っており、それが難しい場合は里親等への委託を検討しているが、いずれもすぐには難しいときには、週末里親や季節里親の事業を利用して家庭での生活を経験してもらっている。この週末里親や季節里親が里親登録者である場合は、こどもの意向も確認しながら、その里親宅への委託に向けて積極的に支援していくことも大切。

○里親等支援業務の包括的な実施体制の構築に向けた取組について

- ・数多くの里親支援機関がある中で、全ての里親支援機関が横並びで支援していくのではなく、役割分担を明確にして、支援体制を構築していく必要があるのではないかと。他の自治体の例なども参考にしながら、児童相談所と里親支援機関の役割分担や協働体制について検討していく必要がある。
- ・将来的に里親支援センターを設置するのであれば、設置の趣旨やその役割を明確にしたうえで、どのような団体が運営する場合でも、その考え方がぶれることのないようにしておくことが重要。